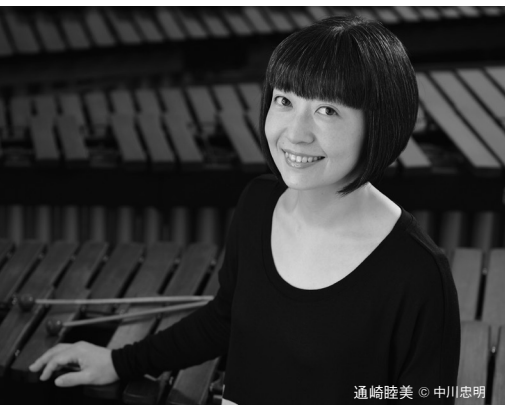




通崎睦美 © 中川忠明



「天使突抜 367」内部

手前: Leckly という楽器メーカー (ディーガン・ライヴァル社) の「Marimba-Xylophone」という楽器
奥: 平岡養一の変器「ディーガン・アーティスト・スペシャル・ザイロフォン No.266」と同じ楽器

FOCUS

7.23 土 ちょっとお昼にクラシック 通崎睦美の「木琴デイズ」 通崎睦美さんインタビュー in 京都／ 平岡養一の木琴から見てきた「本当の豊かさ」とは

文・聞き手 高巢真樹

人気シリーズ「ちょっとお昼にクラシック」の今回は、マリンバ奏者で、本も執筆され、さらにはアンティーク着物のコレクターとしても活躍している通崎睦美さんをお迎えします。タイトルに「通崎睦美の木琴デイズ」とありますが、今回登場する楽器は木琴。通崎さんは「この木琴でしか弾けない」という曲の演奏依頼を受けたことがきっかけで、往年の名木琴奏者・平岡養一(1907～81)の変器「ディーガン・アーティスト・スペシャル・ザイロフォン No.266」と出逢いました。そしてこの1935年製の楽器の音色に魅せられ、現在では演奏、執筆の両輪で、木琴の魅力を生き生きと伝えています。

先日、私が通崎さんにお会いすべく訪れたのが、京都の天使突抜1丁目367。可愛い地名の先にあったのは、通崎さんが自ら仲間のアーティストたちとリノベーションを手がけた素敵な長屋でした。古と今、和と洋が心地よくミックスされた空間で、公演に向けてお話を伺いました。

■2014年に吉田秀和賞&サントリー学芸賞をダブル受賞された著書『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』は、どんな経緯から生まれたのでしょうか？

平岡のことを書きたいとは思っていましたが、目標がなかったら書けない。インターネットで検索していたら、「小学館 ノンフィクション大賞」という賞を知ったんです。目標があったら書けるかなと思い、2年近くかけて書いて応募しました。そうしたら約300作の中の4作に残りまして。大賞は500万円で、優秀賞は100万円。でも私は賞金ゼロだったんです。3位か4位で(笑)。でも選ばれたことが自信になり、悔しさや、もっとできるんじゃないかという思いもあったので、さらにそこから1年半くらい、時には夜も寝ず書きました。最初自分としては、学園祭でおでんの屋台出して「目指せミシュラン!」と言っているくらいのノリだったんです(笑)。でも最終選考まで残って、そこで落ちたのが逆に良かったなと思います。そうしてやっと見えてくるものがあり、結果的には高く評価していただけるような作品を書くことができました。

■通崎さんは2005年、井上道義さん指揮・東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会で、紙恭輔作曲〈木琴協奏曲〉を演奏された時、木琴の名手・平岡養一さんの木琴を初めて弾いたそうですね。本書では、22歳で「木琴大国」ア

メリカへ渡り、NBCの専属となり、日米開戦までの10年9か月、毎朝ラジオの生番組で演奏し、「全米の少年少女は平岡の木琴で目を覚ます」と言われるほどに活躍した平岡養一の生涯が生き生きと描かれています。この本を書いたことで、どんな収穫がありましたか？

実は私、平岡さんの演奏をどこかで馬鹿にしていた部分があるんです。子供の頃、マリンバを習っていた私は自分が発表会で弾くような曲を平岡さんが弾いておられ、「おじいちゃんがアイネ・クライネとか弾いてる」というイメージだったんです。当時、安部圭子さんなどが現代音楽を弾いておられたので、「これからはマリンバの時代だ。木琴は古い」と思っていたんです。でも時代背景を調べていくと、何もなかった時代に平岡さんみたいな活動することがどれだけすごいかが分かるようになる。平岡さんの時代って、五線譜の読み方を教えてくれる人すらいいないような時代ですからね。渡米だって、今なら飛行機ですぐ行けるけど、船に乗って行くだけで大変。そういう目線が持てると、人生が豊かになるんですよ。私は平岡さんが大好きになりました。それが、この本を書いて一番よかったことです。職人の技術や文化・芸術は、段階をへて発展していくもの。

その時々の大発見や技術の革新を、その時代に自分の身を置いて捉えられるようになると、全てが愛おしく思えてくるんです。楽しみが広がるんですよ。

■この本を通じて読者に一番伝えたかったことは？

物の見方を見直すきっかけになったらしいかなと思います。例えば和服から洋服へ、あるいは木造建築からコンクリート製の建物へという時代の変化と、木琴からマリimbaに取って代わられた時代って、怖いほど重なるんです。1950年にマリimbaが日本へやってきて、その後オリンピックに向かって高度経済成長していく時代に、洋服になり、木造建築が壊され、木琴も忘れられた。でもなんで忘れたのかな？ 日常に根付いていたものなのに。木琴といっても、卓上のもの、教育用のもの、コンサートに使う最高峰のものまで色々あるのに「木琴＝古い」と思われた。そういう考え方を見直してもらえたらいいなと思います。私は何も、「古いものは全ていいです」と言うつもりはないんです。でも、時代を越えた良さ、普遍的なものってありますからね。気密性がいい建物は暮らしやすいけど、例えばこの空間みたいに桐の簞笥があって、隙間風入るような長屋にいたら、通気性がよいからカビもはえない。そういう昔ながらのものの良さを現代にうまく取り入れる生活や物の考え方を感じてもらえたらいいかなと。



平岡養一

■今回は平岡さんから譲り受けた1935年製の木琴を演奏されますが、通崎さんにとっての木琴の魅力とは？

マリimbaはアフリカ由来の楽器で、木琴はヨーロッパにルーツを持つので、木琴はヨーロッパのものがしっくりくる部分があるんです。だからモーツァルトなどのクラシック音楽を弾く時は、マリimbaより木琴の方が合うと100%思っています。

あと最近の私の自慢なんですけどね、去年群馬で演奏会をしたら、聴きに來てくださったおばあちゃんが地元紙に感想を投稿してくださったんです。「通崎さんの演奏をきいたら、体中が爽やかになりすがすがしい気分になった。これぞ音楽療法」と。木琴って、そういうパワーがある気がするんですよ、心も身体も軽くなるというか。マリimbaだと病気までは治せないかなって気がするんです（笑）。木琴は、もうちょっと精神性がある音色。「平岡さんが戦時中に慰問に來てくれて、その日は空腹も空腹も忘れて音楽を楽しんだ」というエピソードがありますが、それって、残響豊かなマリimbaの響きではなく、木琴ならではのピンとした響きが心にずっと入っていったのかなと思うんです。だから、一般のおばあちゃんに「心の奥までしみ渡った」と言われたのって自慢になるし、嬉しいなあと思います（笑）。そういう音楽を奏でたいと思えるのも、木琴があるからこそ。もちろんピアノでもヴァイオリンでもできると思いますが、私にとっては木琴ですね。

■おばあちゃんが投稿するほどの力を与えた音楽の力、素晴らしいですね！

「木琴の音はただものじゃない」みたいな文章でしたね（笑）。私は専門家の人にもいいなと思ってもらえて、初めて聴く人でも、病気が治ったとか（笑）心が軽くなったとか。欲張りですが両方を満たせる演奏ができるといいなと思っています。この「天使突抜367」の長屋も、普通の人がここで時間を忘れてほっこりしてくれるのも嬉しいし、

漆の仕事がすごいねとか、この面取りがきれいとか、工芸がわかる人の厳しい目に耐えるのも嬉しい。そういう空間って、細かく見ると技の集積がある。色々な苦労があり、かなり緻密なことをやっていて、でも最後にほっこりさせる。音楽もそうであったら理想的だなと思います。

■最後に演奏会に向けて、お客様へのメッセージをお願いしますか？

私、ご縁みたいなものってあると思うんです。私が木琴とつながり、それについて書き、水戸で吉田秀和賞をいただき、そこで演奏を聴いてくださった人がいて、何か感じていただいて、こうして呼んで頂けた。水戸のお客様に聴いていただけるということで、普通の仕事以上に嬉しいものがあると思っています。ピアノは、吉田賞贈呈式で共演してくれた鷹羽さんをお願いしました。また吉田賞の前々審査委員長であった林光さんの曲も一つ入れて。そういう「木琴ご縁つながり」の中に一緒に入るような気分で聴きに來てもらったら、すごく嬉しいなあと思います。平岡さんの人生や木琴についてお話ししながら、木琴のオリジナル曲あり、モーツァルトなどのクラシック音楽ありという、いろんな角度から木琴の良さを感じてもらえる欲張りなプログラムです。ぜひ気軽に來てください。

2016年5月11日

.....
コンサート当日は、通崎さんが平岡養一から譲り受けた楽譜等、当時の貴重な資料もご覧いただけるよう計画中です。お楽しみに！

ちょっとお昼にクラシック

通崎睦美の「木琴デイズ」

7/23 土 13:00 開場
13:30 開演

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 1,500円 (1ドリンク付)

出演 通崎睦美 (木琴)、鷹羽弘晃 (ピアノ)

曲目

モーツァルト：ヴァイオリン・ソナタイ長調 K.305 より

フォスター／松園洋二編：金髪のジェニー

林光／野田雅己編：3つの小品

鷹羽弘晃：木霊～木琴独奏のための

ロドリゲス／野田雅己編：ラ・クンパルシータ

スピアレク・平岡養一編：日本狂詩曲

～貴志康一作品による ほか

7.2 土 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン

& ミニコンサート

レッスンとコンサートで弦楽アンサンブルを愉しむ一日

文 篠田大基

茨城県と水戸芸術館との連携で開催してきた「高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート」は、県内各地の高校が参加する吹奏楽や弦楽合奏のレッスン、そしてレッスンとともに入場無料でお聴きいただける水戸室内管弦楽団メンバーのミニコンサート、という2部構成でご好評をいただいております。2012年に茨城県立県民文化センターの活動再開を記念して始まったこの事業は、年2回のペースで続いており、今年で5年目を迎えました。

今年度の1回目は、7月2日(土)に水戸芸術館で開催します。弦楽合奏の公開レッスンと講師によるミニコンサートです。レッスンを受講するのは、勝田高校、土浦第一高校、並木中等教育学校による合同弦楽合奏団。夏に開催される全国高等学校総合文化祭に県

代表として出場するグループです。生徒さんのなかには高校生になってから弦楽器を始めた方も多いそうですが、今回取り上げる曲は、バッハ、シベリウス、ホルストの本格的な作品ばかり。これらの名曲がレッスンでどのように磨き上げられていくのでしょうか。講師は中村静香さん(ヴァイオリン)、店村眞積さん(ヴィオラ)、堀了介さん(チェロ)の3人。水戸室内管弦楽団での活躍のほか、ソロや室内楽での演奏も数多くなさっています。今回の講師によるミニコンサートでは、三人のアンサンブルで、モーツァルト晩年の充実の作品〈ディヴェルティメント〉変ホ長調 K. 563(抜粋)をお届けします。レッスンもミニコンサートも無料でお聴きいただけます。高校生たちのレッスンと講師による演奏とで、弦楽アンサンブルをたっぷりお楽しみください。



過去の公開レッスンより

高校生のための
水戸室内管弦楽団メンバーによる
公開レッスン&ミニコンサート

7/2 土

14:00 開場

14:30 開始

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

入場無料(要入場券)

入場券配布場所: 水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

受講団体 茨城県合同弦楽合奏団(勝田高等学校、土浦第一高等学校、並木中等教育学校)

講師 中村静香(ヴァイオリン)、店村眞積(ヴィオラ)、堀了介(チェロ) ほか

2016.4.30

ちょっとお昼にクラシック

IL DEVU (イル・デーヴ)

日本を代表する男性オペラ歌手4名と名伴奏ピアニストからなる、合計体重約500kgを誇る重量級クラシック・ヴォーカル・グループIL DEVU(イル・デーヴ)が「水戸場所」を行った。完売御礼。約1時間のコンサートでIL DEVUの魅力がぎゅっと凝縮してお届けするため、ソロ曲はあえて割愛し、コーラス曲(唱歌のメドレーや〈ダニー・ボーイ〉〈見上げてごらん夜の星を〉など)でそれぞれのメンバーの声やキャラクターの魅力が出せるように工夫した。ぬくもりと迫力のあるコーラスに、客席は大いに盛り上がった。アンコールは、熊本地震で被災された方々に捧げるロイド・ウェバー〈ピエ・イエズ〉。《関根》アンケートから■マイクなしの男性コーラスがこんなにも素晴らしかったかと驚きました。(日立市:T.Y.さん) ■素敵なGWでした。Bravissimo!(無記名の方) ■どの曲も素敵でした。何度も涙がでてきました。またじっくり皆さんのコンサートを聴きたいです。(水戸市:H.I.さん) ■耳になじんだ歌も、また違う味になり、広がり、深みがとても素敵でした。(常陸大宮市の方) ■初めてイル・デーヴさんを聴きました。全員が主役級の方なのに、突出することなくハーモニーを奏でられて

いて驚きました。またぜひ水戸へお越しくださいたいです。(無記名の方)

2016.5.15

「茨城の名手・名歌手たち 第26回」
出演者オーディション

茨城ゆかりの演奏家たちの登竜門「茨城の名手・名歌手たち」。今年のオーディションには53組(管楽器16/打楽器1/声楽25/器楽アンサンブル11)の応募があり、審査の結果、9組が合格しました。合格者は10月1日(土)に開催する第26回演奏会に出演します。注目の名手・名歌手たちの演奏にどうぞご期待ください。(篠田)

【合格者(部門別・受験番号順)】 ■管楽器: 山田涼子(オーボエ/東海村在住)、白石はるか(クラリネット/ひたちなか市在住) ■打楽器: 根本彩生(マリンバ/水戸市在住) ■声楽: 庄司奈穂子(ソプラノ/水戸市在住)、池田由紀子(ソプラノ/つくば市在住)、鄭貴賢(テノール/大洗町在住)、飯村泰志(バリトン/笠間市出身) ■器楽アンサンブル: Ensemble Cinq Couleurs(木管五重奏: 東朋子、天日順子、佐藤裕美、茅島正道、藤原桃)、Tsukuvago(サクソフォン、トランペット、ピアノ: 中井伶、青木彩、山崎未貴)

最近の公演から



1-2: ちょっとお昼にクラシック IL DEVU

チケット・インフォメーション

《6月25日(土) 発売分》

■朴 葵姫 ギター・リサイタル

9/25 (日) 14:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥3,000 / ユース (25 歳以下) ¥1,000

■ Duo la Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル

10/2 (日) 15:00 開演

料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 / 大学生以下 ¥1,500

■イザベル・ファウスト (ヴァイオリン)

& クリスティアン・ペザイデンホウト (チェンバロ)

10/9 (日) 15:00 開演

料金 [全席指定] 一般 ¥5,000 / ユース (25 歳以下) ¥1,500

■第 54 回 あひる会合唱団定期演奏会

10/16 (日) 14:00 開演

料金 [全席自由] 一般 ¥1,500 / 高校生以下 ¥700

■水戸室内管弦楽団 第 97 回定期演奏会 (指揮: ナタリー・シュトゥッツマン)

10/29 (土) 18:30 開演、10/30 (日) 14:00 開演

料金 [全席指定] S 席 ¥6,000 / A 席 ¥5,000 / B 席 ¥4,000 /
ユース (25 歳以下) ¥2,000

エントランスホール

■パイプオルガン フロムナード・コンサート (入場無料)

7/9 (土) 龍田優美子、10 (日) 石川優歌、

24 (日) J・ウォルトハウゼン

8/11 (木・祝) 阿部翠、13 (土) ぴーすプロジェクト (13:30 ~)

各日 12:00 ~ / 13:30 ~

※ 7/10 (日) は 11:00 ~ / 13:00 ~ (各回 30 分程度)

ACM 劇場

■《第 48 回 水戸市芸術祭》パレエフェスティバル

7/3 (日) ミズホパレエアトリエ 14:00 開演 / シオンパレエ 16:00 開演

料金 [全席指定] 各 ¥500

■未来サポートプロジェクト vol.7『むりやりドクター!』

7/16 (土)、17 (日)、18 (月・祝) 各日 14:00 開演

料金 [全席指定] S 席 ¥3,000 / A 席 ¥2,500 / B 席 ¥2,000

U-25 (25 歳以下・S 席のみ) ¥2,500

■『End of the RAINBOW』

7/30 (土) 13:00 / 17:30 開演

料金 [全席指定] S 席 ¥6,000 / A 席 ¥5,000 / B 席 ¥3,500

現代美術ギャラリー

■《第 48 回 水戸市芸術祭》美術展覧会 第 2 期

(書・写真・デザイン・インスタレーション)

6/29 (水) ~ 7/10 (日) 9:30 ~ 18:00 入場無料

※入場は 17:30 まで ※ただし 7/4 (月) は休館

■「記憶の円環—榮榮&映里と袁廣鳴の映像表現」展

7/23 (土) ~ 9/19 (月・祝) 9:30 ~ 18:00 ※入場は 17:30 まで

[休館日] 月曜日 ※ただし 9/19 (月・祝) は開館

[入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体 (20 名以上) ¥600

※中学生以下・65 歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方 1 名は無料

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり (20 席以上) △…残席わずか (20 席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎高山三智子 ピアノ・リサイタル

……………6/18 (土) 自由席○

◎トン・コーブマン オルガン・リサイタル

……………6/27 (月) 1F △、2F ×

◎ちょっとお昼にクラシック 通崎睦美の「木琴デイズ」

……………7/23 (土) 中央○、左右○

※ 6/1 (水) 現在の状況です。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な 7 月のスケジュール

コンサートホール ATM

■高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

7/2 (土) 14:30 開始 入場無料 (要入場券)

入場券配布場所: 水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

■ちょっとお昼にクラシック 通崎睦美の「木琴デイズ」

7/23 (土) 13:30 開演

料金 [全席指定] ¥1,500 (1 ドリンク付き)

■《第 48 回 水戸市芸術祭》

□市民音楽会 7/17 (日) 13:00 開演 入場無料 [全席自由]

□少年少女合唱祭 7/31 (日) 14:00 開演 入場無料 [全席自由]

茨城の主な 7 月の演奏会

■佐川文庫 TEL / 029(309)5020

・高木竜馬 ピアノ・リサイタル 7/30 (土) 18:00 開演

■ノバホール TEL / 029(852)5881

・土浦友の会成立 80 周年記念 川田成道 ヴァイオリン・リサイタル

7/24 (日) 16:00 開演

■ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

・A.R.C. タンゴトリオ 7/9 (土) 15:00 開演

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000

営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

ATM 便り 毎月 1 回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

ついにスマートフォン・ユーザーになってしまいました。ガラケーの生き残りとして、誇りすら抱いていたのに、時代の波には勝てませんでした。とはいえ、少し便利になったのも事実。これで、いつでも通販できます。(り)

はじめまして、4 月末より音楽スタッフの一員となりました。かねてから芸術館に訪れていたのに、スタッフとして貢献できることを嬉しく思います。精一杯頑張りたいと思っていますので、何卒よろしく願います。(峠)

富田勲さん編曲の〈惑星〉を初めて聴いたとき、驚いたことを思い出します。シンセサイザーの音色はもちろんだ、編曲によって原曲にはない新しい物語が紡がれていたことが衝撃的でした。改めてご冥福をお祈りします。(篠)

今時めずらしい F1 ファンの (り) さんを CS に引き込んで 2 か月。今や F1 マシンも燃料制限、回生エネルギー使用など相当環境に配慮しています。肥大化の一途をたどる私も、(り) さんを見習ってスリム化しなきゃ...(て)

通崎さんのお宅を訪ねた際、お父様から風呂敷をいただいた。シンプルな布ながら、包む、結ぶ、運ぶなど変幻自在に使えて、和の色や柄も美しい。こういう日本文化の優れたもの、気軽に使いこなせるようになりたい。(樹)

次男坊が中学生になりソフトテニス部に入った。ならば、こちらでも元テニス部。特訓してやろうかとコートに連れ出す。ところが、動けたのは最初の 30 分間だけ。その後は立場が逆転。もっと走れと言われる情けなさ。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2016 年 7 月発行 第 209 号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集: 水戸芸術館音楽部門 (五十音順) / 石井亮子
大峠百合香 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン: 藤澤純子
印刷所: 山三印刷株式会社